



# 協会だより

Japan Tourism Facilities Association

No.130



3月

発行／公益社団法人国際観光施設協会

総務委員会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋

2-8-5 多幸ビル九段2階

TEL03-3263-4844

FAX03-3263-4845

E-mail : kankou01@syd.odn.ne.jp

URL : <http://www.kankou-fa.jp>

2021年3月1日

## COVID-19による観光分野の大変容と協会

副会長 涌井 史郎

コロナ禍の今であればこそ、その暗闇が明けた日を予見し、今何をすべきかが我々に問われている。例えばEUはしたたかに地球環境との絡みで、持続的未來への大義を掲げ、人心を味方につけた。いわゆる「グリーンリカバリー」政策である。それは持続的未來を担保することを大義として、エネルギーを主役にした新たなビジネスの展開とそのルールである。この意味は大きい。つまりルールを定めたものがその領域の主導権を握るという意味を成すからである。

観光の世界にもそうした流れが押し寄せてくることを十分覚悟しなければならない。先ずその端緒はオリンピック開催を念頭に置いた、コロナ検査と入国規制の関係が最も喫緊の関ぎ合いに現れる事であろう。いずれにしてもあと数か月。開催か中止かは我が国のみならず国際的な感染状況と、何にも増して宿主国である我が国のCOVID-19への備えの程度への自己評価と、国際的な科学の目が開催可否の判断に強く影響する。この評価や判断の結果は、その後の我が国の観光界の未來を左右するとみて良い。

オリンピックの開催可否という特殊界は別として世界の観光欲求は、さながらダムに貯留されている河水と同様、溢れんばかりの熱量を有しているように思える。歴史を振り返っても天下大乱の後に多くの人々が、自分の居所とは違う地方や国を直接訪ねその後の社会の行方を予察したいという熱量は限りなく膨張することが立証されている。それは国内・国際観光のいずれにも共通する。片や罹患の危険性への警戒がありながらも、見たい知りたいの欲求がそれを上回る可能性が強い。

そうしたCOVID-19直後の観光に対する熱量の予見とは別に、常態的にはこれまでと違う観光ニーズの大転換が起きようとしている。その大転換とは、先のEUにおけるグリーンリカバリーに見られるように、SDGsに代表される持続的未來にその観光行動が矛盾しない商品なり、観光行動を当然とする方向が先のルールに近い形で世界をリードする。

既に航空業界では、燃料をバイオ燃料、水素電池などに置き換えるといった方向が検討されている。観光消費の現場にも、そうした社会的ありようが

必ず投影される。遊びや買い物といった能動的観光行動と消費は副次化し、心と体に働く癒しや静けさ等の安心感、それに伴う環境負荷の多寡が、観光行動の選択肢として優位に働くこととなろう。

と同時に「個」が主流となった多様な形態が観光経済の動向を握ることとなろう。例えば、マルチハビテーションに近い「中・長期の滞在型」「対流型」の観光行動が常態化する可能性などがそれである。これらの多様化は、これまでの観光の概念を根本から覆し、観光と一言では言えない新たな概念の登場を促すかもしれない。

そうした傾向を後押しするのが、DXの登場と展開である。考えてみよう。リモートワーク、ワーケーションという概念は確かに専門家の間ではその可能性が論じられ、いずれそうした時代が来るという予見のレベルでしかなかった。しかし今やそうした働き方が日常性という位置を獲得している。僅かにこの1年、COVID-19に起因して人々の行動は同期しながら猛烈に変化し、あつという間に日常化した。

COVID-19が奇禍となったという側面はあっても、先に述べたようにDXが多彩に展開し始めたことが相乗的な社会現象を生んだ。観光のシーンでは、MaaSのシステムが見逃せない。選択する交通機関や宿泊施設等全ての観光行動が、MaaSのアプリでバックアップされ、支払いの決済が行われ、あらゆる旅の検索や、ルートやスケジュールの変更に伴う交通機関などの予約なども自在となる。

COVID-19の進行の傍ら、同じように便利さを追求し産み出されたこうしたDX革命は、観光そしてそれを取り巻く産業をも大きく変える。時代はCOVID-19以前の世界、強いて言えば文明には戻らないとの主張も大いに説得力を感じる。

世界史を眺めれば文明の転換点には必ずパンデミックが介在していた事実にも照らしても、また世界史に見ることが無かった地球の全人類が一つのウイルスとともに向き合い闘わざるを得ない状況を考え合わせれば、一斉に行動変容を起こしている状況と共に文明の転換点に差し掛かったとする見方は大いに理解できよう。もしこうした社会的大変容に適合できない観光産業の構成員が居たとするならば、淘汰

される対象となる可能性は極めて高い。  
であればこそ技術を基盤にした我が協会は、協会員の相互連携を一段と密にすることにより、環境や

DX といった新たな文明を支配する要因の課題の発見と解決に、しっかりと応えられる体制を整える必要がある。

## HOTERES JAPAN 2021 報告

### ホテルズ実行委員会 委員長 浅野 一行

2021 年 第 49 回国際ホテル・レストラン・ショーは、2 月 16 日（火）～19 日（金）、会場をいつもの東京ビッグサイト（東京オリンピック・パラリンピックの関係で、西・南ホールを使用）に戻し、コロナ禍において感染症拡大防止対策に万全を期して開催されました。

今回の協会ブースは、総合テーマを「ウィズコロナ時代のニューノーマル」とし、コロナ禍で大きな経済的打撃を受けている観光業・宿泊業の皆様に対し、少しでも力になれる情報を提供させていただきました。技術委員会の枠を超えて結成された展示チームは、「ワーケーション」「フェーズフリー」「町じゅう旅館・ホテル」「ウィズコロナ時代の設備」「ウィズコロナ時代の建築」「ウィズコロナ時代のインテリア」の 6 つ。会員会社の技術・ノウハウを直接生かしての提案は、公益社団法人としての当協会の本領が発揮できたと思います。また、規模は縮小しましたが、大型新鋭機器による映像展示へのチャレンジは、一長一短はあったものの他者にはない新たな展示方法の開拓は実りあるものでした。

当協会主催のホスピタリティデザインセミナー「ホテル・旅館の開発&デザイン 最新潮流 2021」の 12 枠は、涌井副会長の講演と注目施設紹介が例年と変わらぬほど多くの聴衆を集めました。来場者数では、昨年が一昨年の約 6 割、今年は昨年の約 6 割と、コロナ禍の影響をまともに受けた結果となりましたが、残念ながら多くの方々にご覧いただけなかったかもしれない大変貴重な展示資料は、今後然るべきタイミングで公開し有効に活用していただこうと考えています。

### 建築部会の活動方針とこれからの予定

#### 建築部会長 崎山 茂

コロナ禍の 1 年が過ぎ、幸いにもホテルズショーは絶やさず開催されましたが、建築部会を含む交流部会は本来の活動が途絶え、ここ数年続けていた活動報告展示は出来ませんでした。その一方、ホスピタリティデザインセミナーでは新しいホテルの開業が数多く報告されました。建築部会は昨年終盤に WEB 会合で再開し、WEB 見学会やセミナーの可能性を議論してきましたが、オリンピックを間近に控えた今、リアルな活動再開に動くべき時期が来たと考えます。手始めに昨年流れたお花見クルーズの開催可能性を探ります。私達が将来性に期待してきた水上観光を推進するうえでその試金石でもあります。

### 設備部会の活動方針とこれからの予定

#### 設備部会長 藤野 健治

設備部会では、「地球環境保全関係の情報を収集研鑽し広める活動」「会員企業にとって興味のある施設の見学を通じて新技術等に関する幅広い知識を習得する活動」等を行っています。

令和 3 年度も、皆様に「新型コロナウイルス感染防止」関連の情報提供を継続して行う予定です。

また、事業計画としては、通常、毎年 2 回の施設見学会 1 回の設備部会全体交流会を開催しておりますが、本年度も昨年度同様、開催の有無や開催方法について、新型コロナウイルスをめぐる社会状況を踏まえながら実現に向けた打合せを進める予定です。

また、活動状況につきましては、機関誌に掲載し皆様に情報発信して行きたいと思っております。

### インテリア部会の活動方針とこれからの予定

#### インテリア部会長 寺本 昌志

インテリア部会は会員同士の親睦と交流が目的となっており、『3 密』を避けなければならないコロナ禍の中では、活動を自粛せざるを得ない一年でした。そんな状況の中でも部会内ではグループ毎に WEB による部内コミュニケーションをとって頂き、この状況下での活動方法についての討議や、グループ内での親睦を図って頂いております。

グループ活動としては、宿泊施設見学 G が 11 月に Web によるホテル見学セミナーを企画しましたが、諸事情により中止せざるを得なくなりました。またセミナーグループでも本年 2 月に WEB セミナーを予定していましたが、今回の緊急事態宣言により 3 月実施に延期する事となりました。この WEB セミナーについては改めて会員の皆様にご案内させていただきますので、是非ご参加頂ければと思います。

コロナの終息はまだ見えていない現状ではありますが、来年度に向けての活動目標はホテル見学、施設見学を各 2 回、研究会 2 回、セミナー 1 回を予定したいと考えています。

いずれに致しましても状況が好転し、これまで通りの活動が行える判断ができるようになりましたら、各グループにて会員の皆様の健康と安全を第一に考え、有意義な情報をお届けできるよう、また委員の皆さんがこの活動を通じて、より良い交流を楽しく行えるよう努めて参りたいと思っております。

## オンライン賀詞交歓会を開催しました

恒例の賀詞交歓会は感染予防対策を講じつつリアルでの開催を予定していましたが、年末からの新型コロナウイルス感染症の感染急拡大による2度目の緊急事態宣言の発出により、開催を中止しましたが、予定していた1月14日に代替案としてオンラインでの開催を企画し参加を募ったところ、30数社からの応募がありました。参加者をパネリストに鈴木会長と対面しながらZOOMウェビナー形式で開催しました。

開催時間は1時間半を予定しましたが、各人各様の思いもあって1時間ほど超過して終える結果となりました。申し込みをされなかった会員にも当日は視聴できるようにした結果、110名の参加となりました。

一部参加者からの感想とご意見をご披露します。

- ・先ずは中止でなく、このように開催できたことに感謝します。
- ・鈴木会長がパネラーの方ひとり一人に会話形式で声を掛けられたことが好印象でした。
- ・参加各社のコロナ禍での活動状況を知ることが出来て良かった。
- ・会社以外で、他企業・異業種の方との交流の場が少なくなり、お話を聞かせていただく場として有効であると感じました。

## ♥編集後記♥

第49回・国際ホテル・レストラン・ショーが2年ぶりに東京ビッグサイトで開催されました。

大都市に於けるコロナの感染拡大が止まらず、緊急事態宣言が延長された中での開催のため、対策として入場規定を設定しての開催となりましたが、商談のための専門展示会として来場者を直接取引に関係する人だけに限定しましたので、来場者に対しては各ブースも対応に力を注いでいただいたことと思います。

この度の開催がこれからの経済活動に貢献できますよう、繋げてまいりたいと存じます。

Y. K

## ホテルズ2021

